

小学校 **総合的な学習の時間**

「健康(命と水のかかわり)」の実践

「総合的な学習の時間」でユニセフ学習に取り組んだ山梨県昭和町立常永小学校4年生担任の中村文彦先生の実践をご紹介します。(紙面の都合上、すべてをご紹介できません。一部省略しています)



水を入れた重いかめを持ち、重さを体験する子どもたち

単元名 わたしたちの命と水 ～体の中の水、くらしの中の水～

単元の目標

- ・自分の健康や命にかかわる水について関心をもつとともに、それらを意欲的に学ぶことを通して自分の健康や命を大切にしようとする。(学習活動への関心・意欲・態度)
- ・自分たちに必要な水から自分の健康や命の維持について学習問題を見だし、追求・解決し、自分の生活とのかかわりの中で自分たちにできることを適切に判断し、人々が健康な生活を送るための水の大切さや命にかかわる水の意義を考える。(総合的な思考・判断)
- ・自分の健康や命にかかわる水について具体的資料を用いて的確に調べるとともに、調べたことを分かりやすく表現することができる。(学習活動にかかわる技能・表現)
- ・自分たちの健康や命の維持には水が必要であり、それゆえ健康な生活を送るためには水を守ることが大切であるということを理解できるようにする。(総合的な知識・理解)

指導計画 (20時間)

第1次 わたしたちと水のかかわり

目標 自分たちの生活にとって「水」が多くの役割を果たしていることや、体においても重要な役割を果たしていることから、「水」の必要性・重要性を考えることができるようにする。

主な学習活動

- ・生活と水とのかかわりについて振り返る。
- ・その他の水とのかかわりについて知る。
- ・生活と水との必要性について気付く。
- ・自分の体と水の関係について疑問を持ち、調べる計画を立てる。
- ・体と水の関係について調べ、まとめる。
- ・体内における、水の必要性に気付く。
- ・日本の水の供給について振り返り、水の確保や安全性に気付く。

第2次 世界の水の様子

目標 世界の水事情について学ぶことを通して、水の確保や安全性、水と健康や命とのかかわりについて考えることができるようにする。

主な学習活動

- ・世界の水は、日本の水と同じように確保され、安全かどうか予想する。
- ・世界の水の様子について調べ、まとめる。
- ・世界の水の様子について発表し、交流する。
- ・ユニセフの方から世界の水の様子について学ぶ。
- ・世界の水の様子から、水と健康や命とのかかわりについて考える。

日本ユニセフ協会のホームページをもとに調べる

本時の活動

- ①本時の目標の確認
- ②世界の子どもの現状とユニセフについてビデオ視聴「ユニセフと地球のともだち」現状について
- ③体験「水がめ」を持つ(運ぶ)体験「経口補水塩」を作る体験
- ④自分たちができること

目標 世界の水の様子から、水の確保の大切さや安全性、健康や命とのかかわりについての理解を深める

子どもたちの感想

- ・きれいな水を飲めない国もあることがわかった。だから水を大切にしようと思った。
- ・日本では水が簡単に飲めるけど、30kmも歩かないと水が飲めない国があつた。水を無駄遣いしないようにしようと思った。
- ・世界では、汚れた水を飲んだり、水くみに時間のかかる国がある。だから安全な水が飲めるように、募金をして水道がある国を増やしたいと思った。
- ・世界では、汚れた水を飲んで、病気になったり、死んでしまう人がいた。水は健康や命とすごく関わっていると思った。だからユニセフに募金して、少しでもそんな人たちの役に立ちたい。
- ・水ではないが、十分に栄養のとれぬ国もあって、その国のために募金をしたかった。

中村文彦先生のお話

・今回の実践では日本ユニセフ協会のホームページをもとに世界の水事情についての調べ学習を行いました。子どもたちは世界には水が簡単に手に入らないところがあったり、水を飲むことで病気になったり命を失ったりしてしまうこともある現状を知り、驚き、水の大切さや命・健康とのつながりを感じることができました。日本ユニセフ協会の方から世界の水の現状や劣悪な条件の中で生活する子どもについておしえていただいたり、実際に水くみに使っている水がめを持つ体験もしたりしました。子どもたちにはこの機会を通して実感を深め、世界に目を向けていってほしいと思います。



写真上：水がめの体験
写真下：経口補水塩の体験

写真は常永小学校よりご提供いただきました。